

認知症と間違いやすい4つの病気

その症状…認知症でないかもしれない…

認知症専門医を対象にした調査では、回答した531人の専門医の8割が「認知症」ではなかったケースがある」と答えています。

間違われやすい病気として主に4つあります。

1. うつ病 2. てんかん 3. 正常圧水頭症 4. 慢性硬膜下血腫

1. うつ病

高齢者のうつ病の場合、悲しさの訴えや気分の低下はあまりなく、意欲や集中力が低下したり、気持ちが大きく動くことが少なくなったりするなどの特徴があります。

「物忘れが増えた」といった記憶力低下の訴えも多いため、認知症と誤診されやすいのです。

特に65～75歳の比較的「若い」高齢者でこうした傾向が強いため、注意が必要です。

また、「うつ病」は女性に多く、身体の病気を抱えている人、離婚や死別を経験した人、

過去、「うつ病」にかかった人がなりやすいと言われてしています。



2. てんかん

「てんかん」というと、身体を突っ張らせるけいれん発作をイメージしがち。また、子どもに多い病気と思っている人も多いようです。しかし、実は高齢者の1～2%は「てんかん」患者だという海外のデータもあり、決して少なくない病気。しかも高齢者の場合、けいれんを伴わない発作が多いため、

「てんかん」だと気づかれないケースが少なくないといえます。

一時的に意識を失ったり、目の焦点が合わずにぼんやりしたり、

発作の間の記憶がないことが多いため、認知症の症状と間違われてしまいやすいのです。



3. 正常圧水頭症

くも膜下出血や髄膜炎、頭部外傷などが原因となって、脳に髄液がたまりすぎることによって起こります。

記憶障害より集中力や意欲の低下が目立つほか、小股でヨチヨチ歩いたり、

Uターンがしにくくなったりするなどの歩行障害、尿失禁などの症状がよく見られます。

認知症と診断された高齢者のうち、5～6%は「正常圧水頭症」ではないかとの説もあります。

「正常圧水頭症」は、手術で髄液が適切に流れるようにすることで脳の圧迫が解消され、

認知症のような症状が劇的に改善されることが多いと言われてしています。



4. 慢性硬膜下血腫

頭部外傷によって脳内の血管が切れ、脳に徐々に血がたまることで起こります。

酔って転んだ、床に落としたものを拾おうとしてテーブルに頭をぶつけたなど、

本人も覚えていない程度の外傷でも起こります。

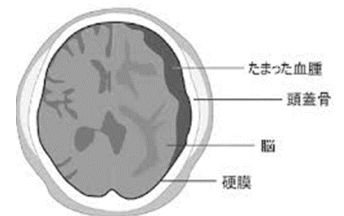
症状は、時間や場所がわからなくなる見当識障害、注意力の低下、

耳から聞いたことを理解する力が衰える、計算ができなくなるなど。

こうした症状が、数週間から数カ月かけてゆっくりと現れるため、認知症と間違われやすいのです。

頭痛や吐き気を伴うこともあります。手術で血腫を取り除くことで、劇的に症状が改善することも多いため、

早めの受診で脳画像の診断を受けることが大切です。



認知症では、と思い込んでいる本人や家族が、まだ認知症専門医を受診していない場合は、ぜひ受診を勧めたいと思います。

「日本認知症学会」HPに専門医が所属している病院リストがありますのでご参考にしてください。

→<http://dementia.umin.jp/g1.html>